

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4571900440		
法人名	医療法人社団 順養会 海老原病院		
事業所名	グループホーム マザーハウス	ユニット名	1階
所在地	東諸県郡 国富町 大字本庄4361-1		
自己評価作成日	平成26年 10月22日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;ijiyosyoCd=4571900440-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;ijiyosyoCd=4571900440-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年11月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

国富町の中心に近い、利便性の良い場所にあります。母体の病院に隣接し、気軽に健康面での相談やリハビリを受けることができ、身体の維持向上に取り組んでいます。「私達はマザーハウスにおいていただいた方々の声なき声を聞き、見えないところを察して安心できる安らぎの場所を作ります」の理念を掲げ、利用者職員と一緒に、ゆっくり・楽しく過ごせるように、常に明るくやさしく接する事を心掛け、幸せに過ごせるようお手伝いさせて頂いています。また、地区自治会に参加させて頂いたり、近所の小学生に向け、訪問時に認知症サポーター講座を開催しています。月1回の誕生会はボランティアにお願いし、病院の方々と一緒に楽しめます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「利用者の声なき声を聞き、見えないところを察してゆっくり楽しく過ごせるように」との理念は、抽象的表現ながら、介護のあらゆる原点を含めたものとして職員は捉え、それを基に毎月1つ目標を立て、ケアの向上に取り組んでいる。母体である病院は道向かいにあり、常に連携を図りながら、利用者の安心安全な暮らしを支えている。ホームは自治会に加入し、地域での役割を積極的に果たしている。運営者は職員の育成に力を注ぎ、資格取得後の職務待遇も考慮され、職員もまた自主的に向上を目指し、働く意欲が感じられる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前項に記載した理念を、毎朝朝礼で唱和している。理念に沿った月目標を決め、職員会議で反省を行う。実践者研修参加の時には、理念を考える機会があり、課題に取り組む。		「入居者の声なき声を聞き、見えないところを察して安心できる安らぎの場所を作る」という理念を基に、具体的な目標を毎月1つ掲げ、利用者の安らぎと安心感を持てる場を作るために、目標の達成に向かい全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加する事により、区長や民生委員の方も当ホームに協力的である。また、町主催の体操にも参加し、地区老人会や行政の方とふれあいの場がある。		自治会に加入し、地域の行事の役員も務め、回覧板を利用者と共に隣に回し、近くの公民館で行われる町主催の体操教室に参加するなど、積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の活動時に、ご近所の方からホームの事や認知症について聞かれたり、小学生の訪問時は職員が講座を行う。今年は町内の他施設主催の講座で、講師の協力も行う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回計画し、構成委員の方に参加の案内をしている。ご意見を記入して頂けるよう、案内文に付け加えて、欠席の方にもお願いをしている。		運営推進会議には、利用者家族の多数の参加があり、各構成委員の間で活発な意見交換が行われている。その中で夜間を想定した避難訓練や家族、地域の役員に対する通報連絡網作成の徹底などの意見が出され、実践につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場職員に、運営推進会議の参加をお願いし、ご意見を頂いている。サポーター講座を開催する時には、役場職員の助言を頂いている。その他、利用者の情報や施設運営に関する書類、困難ケースの報告などを行っている。		ホームの運営推進会議や町主催の運営推進会議にも参加があり、その場での交流がある。また、職員が役場に出向き、ホームの現状報告や困難事例に対する意見や助言をもらい、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの確認、研修などを通して勉強会を行っている。利用者・家族に対しては、入所時に身体拘束をしないケアに取り組んでいる事を口頭で説明している。部屋に鍵はない。日中は、玄関も門も施錠していない。		身体拘束排除マニュアルを作成し、職員は常にマニュアルを確認し、ホームで勉強会を行っている。その中で、言葉の抑制を含めた身体拘束が、利用者にも及ぼす影響などの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を掲示し、また、研修を開催し、職員で話し合いの場を設ける。特に言葉の暴力については、職員間で注意し、話し合っている。			

宮崎県宮崎市 グループホームマザーハウス(1階)

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、研修を受けたことを職員会議等でも同様に勉強会を行っている。制度についての相談があった時には、関係機関についている。利用されている方に情報を頂いている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書、他の関係書類の説明を行い、質問などをお聞きしている。自宅に戻られ読みなおして頂き、不明な点は遠慮なくお尋ね頂くよう、必ずお伝えしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、苦情・相談窓口、玄関に苦情受付箱と記入用紙を設置している事をお知らせしている。年に1回のアンケートと推進会議の案内と共に、ご意見を頂くよう別紙を送付している。	運営推進会議には多数の利用者家族の参加があり、意見も出されている。また、意見や要望が出しやすいように、年1回家族にホームに対してのアンケートを取り、出されたアンケートに対し職員で検討し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの職員に対し、無記名のアンケート調査を行い、母体の病院で集計を行う。その結果は管理者会議や職員会議で協議される。また、年2回の人事考課の際、個別に意見を聞き、仕事の役割を確認し、職員の意欲向上に反映させている。	定期的に行われる職員会議に対し、管理者は職員の意見や要望が出やすいように工夫している。出された意見は、上まで届く風通しの良い関係ができており、職務改善などにつながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の状況を把握し、職員アンケートや面談により働きやすい職場の整備に努めている。また、資格を取得し、自己研鑽に努めている職員に対し、待遇改善された。研修なども希望者を募り、積極的に参加される。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は人事考課等で職員の力量を把握し、法人外の研修の機会を設けている。職員からも研修等の情報を貰い、積極的に参加させている。研修後は職員会議で伝達する。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や町のグループホーム連絡協議会に参加し、他施設との交流の場となっている。特に、町では年に2回ほど集まり、会合を行う。今年度は「お助けサポーター養成講座」で一般の方に認知症に関する講座を4施設と地域包括支援センターで担当し協力をする。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーより、詳細な情報を頂き、それをもとに本人やご家族と面談を行っている。本人の希望や不安などを丁寧に伺い、ご本人が安心できる環境作りに努めている。入所前に利用されていた支援者にもアドバイスを頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討される情報として、ご家族の困りごと、不安な事、要望などに丁寧にお答えし、納得して入所決定して頂いている。また、何時でも面会のできる事をお伝えし、ご本人が落ち着かれるまでご家族の協力を頂いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談をする事で、本人と家族にとって、その時に最も必要とする支援の情報を収集する事に努めている。必要な支援がすぐに提供できるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の出来る方には一緒をお願いしている。身体レベルの低下されている方を気遣って下さる方もおられ、一緒に家事や介護のお手伝いをさせて頂いている状況である。率先して体操をみんなに教えて下さる方もおられる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の少ない方、ご本人の帰宅願望の強い方、遠方に住まわれている方に対し、電話でのやり取りをして頂いている。また、ご自宅訪問などを職員が支援する事もある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院でご近所の方にあたりされ、声をかけて下さる。また、面会に来て下さる。ホームの近隣の方は地区活動などで面識があり、普段でも見かけると声をかけて下さる。	住み慣れた家でひと時を過ごしたり、公民館で行われる体操教室に参加し、なじみの友達との触れ合いやよく出掛けた商店へ買い物に行くなど、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けは一人だけではなく、複数の方に声をかけ、一緒に過ごせる場所作りを行う。気の合う同士の関係を大切にし、気兼ねなく楽しめるように支援している。特に、食事の席、ドライブの車の席等はいつも配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても職員が面会に行ったり、病院職員より情報を頂いている。またはご家族からも今後の相談を受けている。月1回の誕生会では病院と合同なので、お会いした時には励ましの言葉をかけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望があれば、職員間で工夫して出来る方向で検討する。その結果を家族にお伝えし、実行している。希望に添えない時には、その対処法を検討する。本人の精神的安定を優先する事を目標にしている。		日常生活の会話の中から、できる限り利用者の声を聴き取り、職員間で共有し、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者にも寄り添い、話しかけ、表情や仕草から利用者の思いをくみ取り、思いをかなえるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時を含め、家族の面会時にご本人の話をお聞かせいただき、その方の生活歴の把握に努める。また、ドライブ等でご近所を通るとその話題にする。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や介護記録を活用し、状態把握に努めている。毎月その方のモニタリングを記入し、状態の把握を行っている。それをもとに、ケアプランの修正に活かしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各階のリーダーを中心に、チームで共通認識を持ってケアに取り組んでいる。モニタリングなど担当を決めて取り組んでいる。		定期的に行う担当者会議の中で、月1回のモニタリングやアセスメントの内容を検討し、家族の意見や要望を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を利用し、日々の様子を記入している。業務日誌では、特に申し送り(夜間を中心)の必要な事を記入し、サインしている。その結果を介護計画等の見直しの参考にしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の施設では、リハビリを希望される利用者に行っており、残存機能低下防止に取り組んでいる。利用者やご家族の状況に応じ、特別な外出の支援を行っている。			

宮崎県宮崎市 グループホームマザーハウス(1階)

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、自治会長や民生委員と連携を深めている。また、地区の班活動にも参加している。町社協よりご紹介を頂き、誕生会や夕涼み会などでボランティア要請をし、訪問して頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に応じた病院を受診している。受診時は、家族又は職員が付き添う。必要なら歯科訪問診療もされる。希望があれば医師の説明が受けられ、相談ができる。	入居時に利用者・家族から、母体である病院を受診する同意を得ており、家族又は職員が同行している。家族同行が困難な場合は、生活状況報告書にて、受診結果を家族に報告している。月2回の定期検診も行き、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診察時の相談など、スムーズに解決できるように配慮していただく。外来スタッフ他、病棟スタッフにも、夜間休日を中心に協働して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応を行っている。特に夜間の様子などを病棟に情報提供し、安心して見て頂けるように配慮している。入院の様子などを病棟スタッフに伺ったり、面会をする。また、御家族より情報を頂いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針を説明し、本人又はご家族より承諾を得る。主治医からも初回診察時に急変時の対応について説明を頂いている。状況変化のあった時には主治医の指示のもと、その時点の希望に添えるよう、関係者で相談をする。	重度化や終末期におけるホームの指針は文書化され、入居時に本人、家族に説明を行い、同意書ももらっている。家族の要望に応え、現在ホームのでき得る最善の支援を行い、利用者、家族の希望に沿えるように主治医や職員と共に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを通して、応急手当や初動について確認をしている。個人ファイルに手順書を入れたり、電話口に主な連絡先の一覧を置いている。毎年、心肺蘇生等の救急法の講習に交代で参加し、復命を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練を実施し、消防署・防災会社・自治会・病院・家族と協力を頂いて行っている。	規定の災害訓練のほかに、自主防災訓練を3か月に1回行っている。夜間を想定した訓練や職員、家族、地域役員へ迅速に伝わる避難連絡網の作成など、地域の協力を得ながら災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をもとに、月目標を決めて実施する事で、特に言葉遣いに注意をしている。プライバシー保護に関しては、マニュアルの回覧や職員会議で確認している。		利用者のプライドを傷つけない言葉遣い、排せつ時の誘導の言葉かけなどにも心がけ、常にマニュアルを確認しながら対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、ご本人の希望により、買い物などしたいと希望のある時には、家族の承諾を得て実現できるように支援している。日課は決まっているが、それにとらわれることなく過ごして頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、過ごしていただく。例えば、入浴など、予定されている時以外でも、その方の希望に合わせて行っている。その他、食事の時間もその方の都合や体調に合わせての配慮を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人にあった洋服などを持って来ていただき、着て楽しまれる。理・美容は、本人や家族の希望を取り入れている。ヘアクリームや化粧品など、家族が持って来られる方もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをして下さる利用者と一緒に、食事の準備や後片付けをしている。調理当番が、時には利用者の希望を聞いて作ったりして、食べて頂いている。自家菜園の野菜の手入れや収穫を手伝って頂き、調理をしている。		季節ごとに取れる自家菜園の野菜などを使い調理をしている。下ごしらえや後片付けなど、利用者の持っている能力に合わせて手伝ってもらっている。職員は、利用者を見守り、会話しながら、同じテーブルで同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録表に食事量などを記録し、把握している。水分は、ペットボトルやキーパーを使用し、いつでも水分が取れるようにして飲んで頂いている。食事の形態も状況に応じ、刻みやトロミ等の対応をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、1日おきの洗浄剤の消毒を行う。自歯のある方は磨き残しを確認し、介助を行っている。口腔ケアに関して分からない事は、訪問診療の時に、歯科衛生士に教えていただくときもある。			

宮崎県宮崎市 グループホームマザーハウス(1階)

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録表を記入し、排泄パターンをつかむ。その方に応じて声かけやトイレの介助を行っている。自立の方は、安全にされているか、確認をそつと行う。その方の尿量に応じ、パットの使い方を工夫している。		排せつパターンを参考に、個々に時間を見計らって声掛けをしている。自立の方はそつと見守り、介助の必要な利用者には、安全に、不安を感じさせないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔や状況をチェック表にて把握し、便秘されていないか確認をする。便秘の予防として、常に運動や水分補給に気をつけている。普段より野菜中心の食事を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	浴槽は一人用なので、個別で対応している。利用者には、1日おきに入浴して頂いている。時間は決まっているが、その日の気分や体調に合わせて対応している。		週3回を基本入浴としている。重度化で浴槽に浸かれない利用者には、足湯をしながら十分体を温める工夫をし、その日の気分や体調を考慮し、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員個室で、好きな時間に就寝出来るように介助を行っている。夜間眠れない方は、一緒にお茶を飲んだり、ゆっくりする事で落ち着いて頂く。また、日中の活動ができる場を作り、安眠できるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全職員で管理をし、診察後に薬受けした時には薬情報を確認し、変更のあるなしを申し送りする。個人の薬管理箱を作り、誤薬のないように対応している。薬の不明な点は、主治医や看護師などに尋ねている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(食事関係や掃除等、洗濯物干しやたたみ方)や菜園の作業を快く手伝って下さる。食器洗いは特に自分の仕事だと思われる方もおられ、交代で手伝って下さる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平日は、リハビリで病院へ行くのを楽しみにされている。土日はドライブに行く事が多く、方向や場所など、利用者の希望をお聞きしている。年に2、3回お弁当遠足や外食も取り入れ、喜んで頂いている。		毎日の散歩を兼ねて、道路一つ隔てた病院へリハビリに通っている。土、日にはドライブに出掛け、季節の移ろいや風景の変化を感じてもらうことで利用者の五感の刺激を促している。時には外食や弁当を持って遠足を楽しむなど、利用者の希望を取り入れながら支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、希望があれば一緒に買い物に行くなどして対応している。また、ご家族の了解の下、ご自分で手元に現金を管理され、買い物される方もある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人の希望される時に、自由に掛けて頂いている。また、ご家族からも定期的にお電話のある方もあり、取り繋いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は朝・晩に掃除を行い、常に清潔な心がけている。冷暖房にて、温度管理をしている。季節感を味わって頂けるように、掲示物や生け花などで工夫している。		利用者が集うホールの窓には色鮮やかなスタンドグラスがはめ込まれ、いつも掛けている椅子やソファは洋風で、至る所おしゃれな雰囲気の中で食事やテレビ鑑賞などを楽しめるようにしている。季節感のある花や利用者の作品が飾られている。音や光の不快感もなく、温度や換気にも配慮がなされ、清潔感を感じ、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる事が多く、ご自分の席のほかに、ソファでくつろがれる方もおられ、その場その場で仲良く会話をされている。また、洗面台横や玄関ホールに椅子を置いて、自由に使っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込まれている方もおられる。また、備え付けの家具も自由に配置して、利用されている。ご家族の希望で、写真や飾り物など自由に飾られている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりやエレベーターを設置。また、十分に車椅子が回転できる広さがある。安全かつ自由に生活ができるよう、障害物等の排除に気をつけている。			